



CSR REPORT
СЭБ ГЕБЮБЛ

2016
5016

情報革命で人々を幸せに



ソフトバンクグループは経営理念に「情報革命で人々を幸せに」を掲げ、これまで人類が解決できなかったような多くの課題に果敢に挑み、社会全体に貢献する企業グループであり続けたいと思っています。

2015年には世界初となる、自分の感情を持ったパーソナルロボット「Pepper」を発売し、高齢者向けの福祉施設や幼稚園など、さまざまな分野で活躍しています。今後はさらに世界規模での技術開発が進められ、ロボットと人間が共生する社会はリアリティを増していき、人々のライフスタイルはより豊かで素晴らしい世界になっていくでしょう。

また、ソフトバンクグループは太陽光発電や風力発電など自然エネルギーの普及を事業パートナーと共に国内外で推進し、世界的視野で地球環境への貢献を目指しています。

私たちは情報革命を牽引する立場として、技術革新を推進しながら、世界中の人々が豊かに暮らせる社会を実現するため、新しいサービスやプラットフォームを提供していきたいと考えています。これからも「ソフトバンクグループCSR基本方針」である「健全なインターネット社会」「夢と志を持つ次世代」「地球の未来」「復興支援」というテーマの下、事業を通じて社会課題の解決に取り組んでまいります。

2016年8月
ソフトバンクグループ 代表取締役社長

孫 正義

ソフトバンクグループについて

ソフトバンクグループは、事業領域である「情報産業」において、時代に必要とされる最先端のテクノロジーと最も優れたビジネスモデルにより、情報革命を推進していきます。

2016年3月末現在

社名	ソフトバンクグループ株式会社	SoftBank Group Corp.
設立年月日	1981年9月3日	
本社所在地	〒105-7303 東京都港区東新橋1-9-1	
代表者	代表取締役社長 孫 正義	
資本金	2,388億円	
子会社数	739社	
関連会社数	135社	
従業員数	199人(連結ベース63,591人)	

ソフトバンクグループの事業領域と主なグループ企業(2015年度)

■ 国内通信事業	3兆1,447億円	ソフトバンク株式会社/Wireless City Planning株式会社
■ スプリント事業	3兆8,716億円	Sprint Corporation
■ ヤフー事業	6,520億円	ヤフー株式会社/アスクル株式会社
■ 流通事業	1兆4,204億円	Brightstar Corp. /ソフトバンクコマース&サービス株式会社
■ その他	3,907億円	福岡ソフトバンクホークス株式会社/SBエナジー株式会社/Bloom Energy Japan株式会社

社名の表記について…このCSRレポートでは、特段の記載がない限り、2016年8月1日時点の社名を示しています。

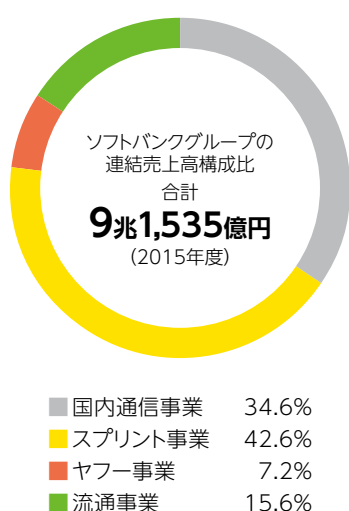
ソフトバンクグループCSR基本方針

ソフトバンクグループは通信事業者として、情報という名のライフラインを守る重要な使命と責任を負っています。この大きな社会的責任を完遂するために、私たちは常にお客さまの「うれしい」から考え始め、成長への果敢な挑戦を通じて株主の皆さまの期待に応えます。また、その挑戦が成長を生む環境を整えて従業員のやりがいと誇りを大切に、相互信頼と革新をベースにしてお取引先との発展を期し、そして健全なインターネット社会の夢と志が次世代に受け継がれるような社会への貢献を続けていきます。

- 私たちは… 私たちソフトバンクグループは、「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、事業を通してステークホルダーの皆さまと共に発展を遂げる企業でありたい。そのために、私たちは、自らにこう問いつづけます。
- 創っているだろうか ワクワクする驚きを。わかりやすさと安心を。みんなの「うれしい」を。ソフトバンクグループは、**お客さま**本位でありつづけます。
- 進めているだろうか 成長へのあくなき挑戦を。健全で透明な経営を。公正で適時な情報開示を。ソフトバンクグループは、**株主**の皆さまの期待に応えていきます。
- 持っているだろうか チャレンジと成長の場を。個性が生かされる環境を。頑張りや成果が評価される仕組みを。ソフトバンクグループは、**従業員**のやりがいと誇りを大切にします。
- 築いているだろうか 相互の信頼を。公正な取引関係を。革新を生み出すパートナーシップを。ソフトバンクグループは、**取引先**の皆さまと共に発展していきます。
- 育んでいるだろうか 健全なインターネット社会を。夢と志をもつ次世代を。地球の未来を。ソフトバンクグループは、人々が幸せになる**社会**作りに貢献します。

ソフトバンクグループは あすのインターネット社会にむけて、志高く事業に取り組んでまいります。

売上高の構成比率※



目次

■ 社長メッセージ	2	▶
■ ソフトバンクグループCSR基本方針	3	▶
■ 特集1 グループ全体で再生可能エネルギーの普及・拡大へ	4	▶
■ 特集2 ますます活躍の場が広がるPepper	5	▶
■ みんなで協力できる社会を	6	▶
■ 東北支援	8	▶
■ 災害対策	11	▶
■ 夢と志を育む	12	▶
■ 安心・安全	13	▶
■ 環境	14	▶
■ 多様なニーズ	16	▶
■ その他	18	▶
■ 2015年度実績と2016年度予定	20	▶

※セグメントの売上高の単純合算額（「その他」を含まず）に対する各セグメントの比率

[報告期間] 2015年4月～2016年3月
[主な報告範囲] ソフトバンクグループ(国内連結子会社)

詳細情報
(外部サイトへ)

グループ全体で再生可能エネルギーの普及・拡大へ



ソフトバンク

SBパワー

「ソフトバンクでんき」で 再生可能エネルギー由来のFIT電気を提供

ソフトバンクは2016年1月から、ご自宅のでんきも「あんしん・あんぜん・おトク」にお届けする電力サービス「ソフトバンクでんき」の申し込み受け付けを開始しました。また、グループ企業のSBパワーが小売電気事業者として、太陽光などの再生可能エネルギーで発電されたFIT電気*の比率が高い電力を届ける「FITでんきプラン(再生可能エネルギー)」を用意し、北海道電力エリア、東京電力エリアおよび関西電力エリアで提供しています(2016年8月1日時点)。

*SBパワーがこの電気を調達する費用の一部は、電気をご利用の全ての皆さまから集めた賦課金により賄われており、この電気のCO₂排出量については、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO₂排出量を持った電気として扱われます。SBパワーの電源構成の全体に占める割合は、年間を通じて50%以上をお約束します。

SBエナジー

約3万世帯分の年間電力消費量を発電する 「ソフトバンク苫東安平ソーラーパーク」が稼働

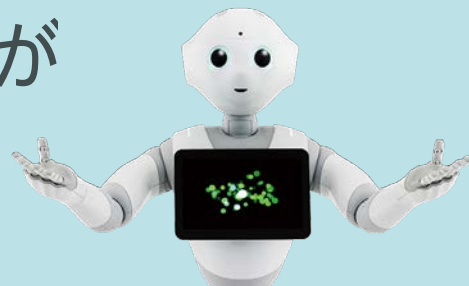
自然エネルギー事業などを行うSBエナジーと三井物産株式会社は、2015年12月1日から国内最大級の太陽光発電所「ソフトバンク苫東安平ソーラーパーク」の営業運転を開始しました。「ソフトバンク苫東安平ソーラーパーク」は、北海道勇払郡安平町遠浅の約166万m²(約166ha)の土地に設置される、出力規模が約11万1,000kW(約111MW)、年間予想発電量が一般家庭約3万世帯分の年間電力消費量に相当する約1億801万4,000kWh/年を見込むメガソーラー(大規模太陽光)発電所です。

SBエナジーは、今後もメガソーラーや風力発電、バイオマス発電、水力発電、地熱発電といった自然の力を利用して生み出される再生可能エネルギー発電所の建設と運営を推進し、再生可能エネルギーの普及・拡大を目指します。



ソフトバンク苫東安平ソーラーパーク

ますます活躍の場が 広がるPepper



幼稚園や小児医療機関で子どもたちに笑顔と学びを ～Pepperスマイルプログラム～

世界初の自分の感情を持ったパーソナルロボット「Pepper」。Pepperには子どもたちが楽しく学んだり、遊んだりできるロボアプリが充実しており、ワクワクするような未来体験を提供することで、多くの学びと笑顔を提供することができると考えています。そこでソフトバンクは、幼稚園や小児医療機関にPepperを1カ月間無料で貸し出し、Pepperと一緒に過ごす未来体験をしてもらう「Pepperスマイルプログラム」の募集を2016年3月に行い、多くの幼稚園や小児医療機関で導入されました*。

※非常に多くご応募いただき、現在は申し込みを終了しています。

※撮影協力：学校法人 緑ヶ丘学園 認定こども園 はやし幼稚園 / 学校法人 石川学園 杉之子幼稚園

導入先の声

学校法人 緑ヶ丘学園 認定こども園
はやし幼稚園 難波 忠弘さま

子どもたちの反応は良好で、笑顔で積極的に関わろうとする子どもたちが多かったです。また、今回Pepperを迎え入れることで、ロボットと人間と一緒に暮らしながら、笑顔があふれる社会をイメージすることができたのは、非常に良い機会でした。

教育的な面で言うと、同級生や周囲の大人と関わりたいという気持ちを醸成したり、自分と違う存在を認知したり、Pepperならではの教育的役割の可能性を感じました。

介護の現場ではレクリエーションを担当

法人向けに提供している「Pepper for Biz」はビジネスシーンにとどまらず、地域社会をサポートするデバイスとしても注目を集めています。高齢者向けのデイケアサービス*を運営している社会福祉法人一燈会グループでは、リハビリテーションの専門家とフューブライト・コミュニケーションズ株式会社が共同で企画・開発したデイケア向けロボアプリを使い、高齢者がPepperの指導に合わせて手や足を動かしたり、童謡を歌いながら振り付けを覚えたりすることで、楽しみながらリハビリテーションできるレクリエーションを提供しています。

実際にPepperと接する高齢者の反応は非常に良好で、「声や仕草がかわいい」「孫のように思えてくる」といった好意的な意見がとても多いです。また、Pepperがレクリエーションに携わる職員のサポートを担うなど、職員の負担軽減にもつながっています。

※理学療法、作業療法、言語聴覚療法などによるリハビリテーションを高齢者に提供するサービスです。
体操や機能訓練のほか、昼食、入浴、レクリエーションなどのプログラムが提供されています。

平成28年熊本地震の被災地でも活躍

2016年4月に発生した平成28年熊本地震の被災地支援として、熊本県内の避難所に2016年6月からPepperを派遣しました。長期化する避難所生活のストレス軽減を目的としており、避難している方々は子どもから大人までPepperとの会話や体操、ゲームなどを楽しんでいました。



多くの人々が一緒に支え合い、その思いを形 ソフトバンクはお客さまと共に、支援を必要と

チャリティスマイル



頼れる家族がない、全国の子どもたちのために

ソフトバンクでは、親を亡くしたり、虐待などにより居場所を失った全国の子どもたちを支援するため、「チャリティスマイル」の提供を2016年2月から開始しました。これは、携帯電話利用料金のお支払いと一緒に毎月10円をお客さまから寄付いただき、ソフトバンクも同額の10円を拠出し、計20円を2年間毎月寄付するオプションサービスです。

事故や災害などで親を亡くした遺児は全国で約40万人*1いると推計されています。また、虐待などの理由で児童養護施設での生活を余儀なくされている子どもたちは、全国600カ所の施設に約3万人にのぼり、全国の児童相談所が把握した児童虐待件数は年間10万件を超えています*2。「チャリティスマイル」により集められた寄付金は、こうした状況にある子どもたちへの奨学金貸与や児童養護施設を築立つ際の自立支援活動に活用されます。

*1 1995年 あしなが育英会調べ *2 厚生労働省調べ *3 2016年8月時点
※大規模災害発生時には、寄付金は被災地支援に充てられます。加入期間はお客さまのご加入から2年間です。

かざして募金

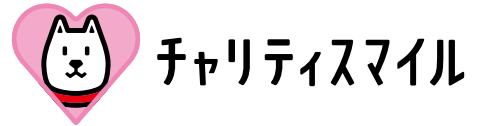
携帯電話から、いつでも・どこでも社会貢献できる

ソフトバンクでは、寄付したい人と持続可能な活動を行うために寄付を必要とする非営利団体をつなぐ「かざして募金」を2014年3月から提供しています。2016年7月現在、300以上のさまざまな分野の非営利団体にご利用いただき、寄付総額は2億円を超えています。

「かざして募金」では、専用ページから応援したい登録済みの団体にSoftBankの携帯電話料金の支払いと一緒に継続的に寄付することが可能です。また、SoftBankの携帯電話から専用の番号に電話をかけることにより対象団体に寄付ができ、さらに大規模災害発生時にはソフトバンクポイントで災害支援活動を行う対象団体に寄付することもできます。

お客さまによる寄付を促進するため、「かざして募金」を活用したさまざまな取り組みも行っています。例えば、2015年12月から2016年2月末まで、「ハートラッピングプロジェクト～1億円達成に感謝の気持ちを込めて～」を実施しました。期間中、お客さまからの寄付回数に応じた金額をソフトバンクがそれぞれの非営利団体に追加で寄付したほか(合計111万円)*、対象寄付先団体へ「毎月継続寄付」を始めていただいた方全員に「お父さん社会貢献バッジ」をプレゼントしました。

*専用番号への架電、ソフトバンクポイントによる寄付は対象外です。



累計
加入件数 約7.6万件*3

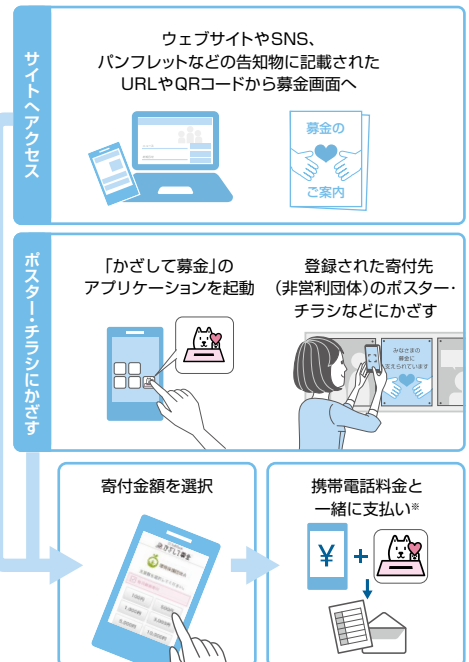
<寄付先> あしなが育英会 / 社会福祉法人 中央共同募金会



かざして募金

寄付先
非営利団体 300 団体以上

【寄付方法の一例】



*SoftBankの携帯電話以外をご利用の方は、クレジットカードでのお支払いとなります。

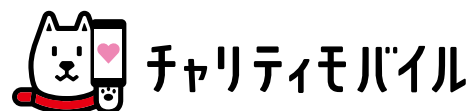
にしてお届けする。 する人々を応援し続けます。

チャリティモバイル

携帯電話を使うだけで、社会に貢献できる

2016年2月から、携帯電話を使うだけで、社会貢献活動を行う非営利団体に寄付できる「チャリティモバイル」の提供を開始しました。

非営利団体ごとに用意されたインターネット専用申し込みページから、新規または機種変更で対象機種をご契約すると、申し込み時に6,000円、さらに月々の利用料金(基本使用料、国内での通信料、付加サービス使用料の合計)の3%を最長2年間、ソフトバンクが対象となる非営利団体に寄付します(お客さまの追加負担はありません)。



寄付先非営利団体 10 団体

寄付先は次の団体から選べます(2016年8月時点)
あしなが育英会／社会福祉法人 中央共同募金会／特定非営利活動法人 国境なき医師団日本／認定NPO法人 テラ・ルネッサンス／特定非営利活動法人 トイボックス／公益財団法人 どうぶつ基金／一般社団法人 日本ワールシニア推進機構／公益社団法人 日本PTA全国協議会／公益財団法人 日本ユニセフ協会／一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター

インターネット
専用
申し込み
ページ

お客さま

ソフトバンク携帯電話
(チャリティモバイル対象機種)



新規契約 または 機種変更

ソフトバンクが寄付 (お客さまの負担はゼロ)

6,000円 1回寄付

毎月
ご利用料金の
3% 2年間
継続寄付

非営利団体



寄付金は、各団体の社会貢献活動に
役立てられます。

さとふる

ふるさと納税をきっかけに、持続的な地域活性化を目指す「さとふる」

「さとふる」は、ふるさと納税(自治体への寄付)を推進し、地域活性化を促進することを目的としたふるさと納税サイトです。サイト内で寄付先の自治体・特産品の選定から寄付の申し込み、寄付金の支払いまでをワンストップで行えるようにすることで、多くの方々に「ふるさと」を応援してもらうことを目指しています。

また、「ふるさとの元気を“フル”にする、ふるさとの魅力が“フル”に集まる」をコンセプトにした「さとふる」では、各自治体の施策や特産品のピーアールにも力を入れています。2016年8月1日時点で、100の自治体のふるさと納税を取り扱っており、今後もより多くの自治体と一緒にふるさと納税を推進し、地域活性化に貢献していきます。



継続すること。寄りそうこと。 ソフトバンクグループにできること。

チャリティホワイト

お客さまとソフトバンクが力を合わせ、 東北の子どもたちを継続的に支援

東日本大震災で被災した子どもたちの継続的な支援に役立てるため、2011年8月から開始した「チャリティホワイト」の寄付総額が10億円を超えました。

チャリティホワイトとは、携帯電話利用料金やブロードバンドサービス料金のお支払いと一緒に毎月10円をお客さまから寄付いただき、ソフトバンクも同額の10円を拠出し、計20円を2年間毎月寄付するオプションサービスです。

累計加入件数 約**299**万件

寄付総額

10億8,205万4,144円

※2016年7月31日時点

<寄付先> あしなが育英会 / 社会福祉法人 中央共同募金会



※加入期間はお客さまのご加入から2年間です。

ずっと! 東北応援プロジェクト

東北の子どもたちを対象に活動する団体を支援

東日本大震災により今もなお、学習や遊びの環境が整備されていない子どもたちや、心のケアを必要とする子どもたちをサポートするため、2016年3月3日から3月31日まで、ソフトバンクは「ずっと! 東北応援プロジェクト」を実施しました。

期間中、「かざして募金」経由で対象となる7つの団体にお客さまが寄付すると、その寄付額と同額をソフトバンクが該当団体に追加で寄付する取り組みで、寄付総額は377万7,000円*となりました。

<寄付先> あしなが育英会 / 社会福祉法人 中央共同募金会 (ボラサポ2) / 特定非営利活動法人 トイボックス / 特定非営利活動法人 にじいろクレヨン / 公益財団法人 東日本大震災復興支援財団 / 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま / 特定非営利活動法人 ベビースマイル石巻

※寄付の申し込み金額で算出。ソフトバンクからの追加寄付の対象は、プロジェクト期間中の一回限りの寄付と、同期間中に開始した「毎月継続寄付」の3月分寄付です。

ずっと! 東北応援プロジェクト



~ソフトバンクグループ 復興支援への取り組み 特設サイト開設~

これまでの当グループの復興支援への取り組みや、東北の復興に向けて活動を続ける方へのインタビュー、現在の東北の様子をレポート形式でお届けしています。

- ソフトバンクグループ 復興支援への取り組み
- 東北訪問レポート ● 復興支援インタビュー



TOMODACHI ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム

「東北に夢を、活気を、変化を」

東北の未来を支える高校生に地域貢献を学ぶ機会を提供

ソフトバンクグループは、東日本大震災の被災地域である岩手・宮城・福島の3県の高校生約100人*を、当グループ代表の孫 正義の母校、米国カリフォルニア大学バークレー校で行われる3週間の集中コースに招待し、リーダーシップと地域貢献を学ぶ機会を毎年提供しています。

同大学の問題解決型のワークショップ「Y-PLAN (Youth-Plan, Learn, Act, Now!)」に参加し、能動的に考え、行動することを学ぶことで、東北復興の方法を探求します。

帰国した生徒の多くは、本プログラムで学んだことを生かしてそれぞれの地元でリーダーシップを発揮し、積極的に地域貢献活動に取り組んでいます。

米国での学びやそれを生かした地元での活動を共有し、また同じ志を持つ仲間を増やせるよう、帰国後には参加者の集いなどを開催しています。また、帰国後、地元に戻った生徒たちの活動をサポートするため、地域の大人(アダルトアライ)による協力体制をつくるなどして、米国での学びが具体的なアクションにつながるようサポートしています。

*2012年度は300人

2012年度から実施
2021年度まで継続実施予定

**2015年度までに
東北の高校生、累計
約600人が参加**



参加者による帰国後の活動

① trees

相双地域の魅力を届ける(福島県相双地域)

復興に向けて頑張っている人を知ってもらい、東北とそれ以外の地域に住む人との「つながり」をつくりたいという思いから、福島県相双地域に住む高校生が2014年9月からインターネット通販サービス「そうまうま定期便」を提供しています。

年間2万円で、年に4回、高校生が薦める地域の物産を生産者の思いやレシピ、地域情報、高校生からの感謝状と共に発送しています。



② マグネットぬりえプロジェクト

「仮設」ではなく「家」へ(岩手県釜石市)

「自分たちが住んでいる場所を『仮設』ではなく『家』と呼んでもらいたい」という思いから、釜石市の仮設住宅の壁を手書きの絵が描かれたカラフルな磁石シートで飾りました。釜石市で活動する一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校の協力を得て実施しました。

仮設住宅の住民や地元の高校生だけでなく、全国から多くの人がこの活動に参加し、延べ6千枚の磁石シートが仮設住宅の壁に飾られました。



Yahoo! JAPANによる 継続的な復興支援

ヤフー(以下、Yahoo! JAPAN)では、東日本大震災発生直後から震災に関連する情報発信や支援活動など、さまざまな取り組みを進めてきました。そして東日本大震災から5年が過ぎた今も、インターネットや人と人とのつながりを力として、東北に山積する多くの課題に取り組んでいます。

ツール・ド・東北

震災の記憶を未来に残していく自転車イベント

被災地へ赴き、地元の方たちと一緒に何かを生み出し、それを東北から全国に伝えていくという挑戦をしています。2013年に東北に人を呼び込むために何かできないかという思いから、自転車イベント「ツール・ド・東北」をスタートさせました。1年目の参加者は約1,500人、3年目の2015年は約3,500人と、出走人数を拡大して開催しました。この大会は10年間継続する予定です。将来は親子2代で参加して、震災を知らない子どもたちへ震災を語り継ぐなど、その記憶を未来につないでいけるようなイベントにしたいと考えています。



震災から5年、いま応援できること

3.11、検索は応援になる。Search for 3.11

「Search for 3.11」は、3月11日に「Yahoo!検索」で「3.11」というキーワードで検索された人数×10円を復興支援に取り組む団体にYahoo! JAPANが寄付する取り組みです。東日本大震災から年月が経過する中で、「Yahoo!検索」のデータにも震災の風化が顕著に表れてきたことをきっかけに、検索という能動的な行為によって東日本大震災をもう一度「自分ごと化」してほしいという思いから2014年に始めました。2016年3月には、2,466万2,060円を東北の復興に携わる10の団体へ届けました。

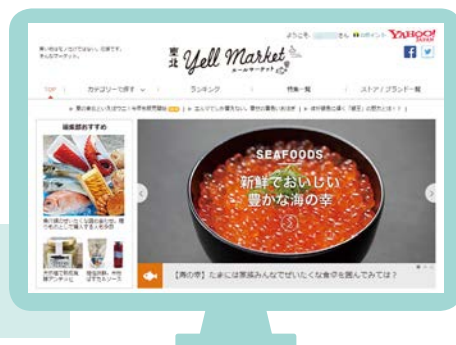


<寄付先> フィッシャーマンジャパン/小高ワークスペース/一般社団法人ドリームプロジェクト/南三陸ミシン工房/COOL AGRI/いわきおてんとSUN/特定非営利活動法人吉里吉里国/特定非営利活動法人 TEDIC/特定非営利活動法人 マザーリンク・ジャパン/ごしごし福島

東北エールマーケット

ショッピングを楽しむことで東北にエールを

震災により販路が失われた商品を、インターネット通販を活用し全国に発信・販売する「復興デパートメント」が、「東北エールマーケット」としてリニューアルしました。今後、東北支援を続けていくためには、継続的な販路の確保が重要なことから、「復興支援のために買う」ではなく、「本当に欲しいものを買う」をコンセプトにしています。



通信インフラを担う企業としての責任

災害訓練

年2回の総合防災訓練で、通信網の早期復旧に備える

ソフトバンクでは、ライフラインである通信インフラを担う事業者として大規模災害の発生に備えた指針づくりと対策整備を行うとともに、関係官公庁との緊密な連携を図り、万が一の事態に備えています。

例えば、毎年春と秋の2回、大地震・火災などを想定した総合防災訓練を実施しています。2016年3月には、首都圏で大規模地震が発生し、首都圏の機能が停止したことを想定して、関西地区に設置した災害対策本部の運営および通信の復旧に向けた一連の動作を確認しました。具体的には、関西の技術部門の社員が全国の移動電源車・移動基地局車や可搬型基地局を首都圏近郊に設営するベースキャンプや重点拠点に移動し、設営するための訓練を行いました。

また、ヘリコプターを出動させ、大規模災害発生時のヘリコプター移動の安全を確認し、上空から地上の様子を目視で確認することで、有事の際、人員輸送・情報収集にヘリコプターを確実に利用できるようにしました。



災害時安心サービス

災害や防災に関する情報提供とコミュニケーション手段の確保

当グループでは、災害や防災に関する情報の提供や災害が発生した際の情報通知、お客さまのコミュニケーション手段を確保するためのサービスを提供しています。

● 災害に備えるための情報を提供

Yahoo! JAPANが提供する「Yahoo!天気・災害」「Yahoo!天気」は、天気予報をはじめ、雨雲のリアルタイムの動きを知らせる「雨雲ズームレーダー」など、天気に関するあらゆる情報・災害情報を提供しています。また、災害や防災に関する知識の啓発のため、実用的な防災コラムや防災グッズなどの情報も紹介しています。

● 災害発生時の情報をいち早く提供

SoftBankやY!mobileでは、緊急地震速報や津波警報、特別警報、災害・避難情報を対象エリアにいるお客さまに緊急速報メールとして配信します。また、Yahoo! JAPANの提供する「Yahoo!防災速報」では、緊急地震速報や豪雨予報、避難情報などをスマートフォンや従来型携帯端末などにいち早くお知らせします。

● 災害時のコミュニケーション手段を提供

SoftBankやY!mobileでは、大規模災害発生時などにお客さまの安否情報確認に利用できる「災害用伝言板」や「災害用音声お届けサービス」を開設しています。また、ソフトバンクの携帯電話から110番や119番などの緊急通報を行った場合、緊急通報を行った場所の位置情報を緊急通報受理機関に自動的に通知します。

※対応端末は、各社ホームページでご確認ください。



チャレンジする全ての人を さまざまな取り組みでバックアップ

DO-IT Japan

携帯情報端末を活用し、障がいのある若者を将来のリーダーへ育成

ソフトバンクは、2007年から障がいのある若者のための進学・就労支援プログラム「DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan」(東京大学先端科学技術研究センター主催)を支援しています。「DO-IT Japan」は、障がいや病気を抱える小中高校生および大学生の進学とその後の就労への移行支援を通じて、将来、社会のリーダーとなる人材を育成することを目的としています。

ソフトバンクは、当グループで教育事業を担うエデュアストと、2011年からタブレットを活用したプログラムを実施したり保護者向けのセミナーを実施し、学びの活性化を支援しています。



福岡ソフトバンクホークス選手などによる野球教室

ホークス選手とふれあいながら、 スポーツの楽しさを体感

福岡ソフトバンクホークスと福岡ソフトバンクホークス選手会は、2015年11月に九州の計8会場でふれあい野球教室「SoftBank HAWKSベースボールキッズ 2015 in 九州」を実施し、約2,000人の小学生が参加しました。

また、当グループ各社*が協賛している「ソフトバンクグループ野球教室 in 東京 2015」には、約200人の小学生が参加しました。この野球教室は、ホークスの現役選手や元選手などと子どもたちがふれあい、野球の楽しさを体験してもらうことで、子どもたちの健全な育成に寄与し、スポーツ振興の一助となることを目的としています。

*ソフトバンクグループ、ソフトバンク、ヤフー、SBアットワーク、SBクリエイティブ、ソフトバンク・ペイメント・サービス、オッズ・パーク、ソフトバンク・テクノロジー



平成28年熊本地震の被災地で 野球教室を開催

平成28年熊本地震で被災した熊本県内の小学校で、スポーツを通じて子どもたちに笑顔を届けるため、2016年6月から福岡ソフトバンクホークスの元選手らによる野球教室を開催しています。参加者からは「地震で野球ができない日が続いたが、この野球教室で体を動かしたら楽しく、また野球を頑張ろうと思いました」などの感想が寄せられました。

トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム

次世代のグローバル人材を育成する 官民協働プロジェクト

ソフトバンクグループは、2014年から開始された官民協働で取り組む海外留学支援制度「トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム」を支援しています。2020年までの7年間で約1万人の高校生・大学生がこのプログラムの派遣留学生として海外に送り出される計画です。



携帯電話やスマートフォンを 誰もが安心・安全に利用できる社会へ

「考えよう、ケータイ」

子どもたちが安心・安全に スマートフォンを利用するための教育教材

ソフトバンクでは、携帯電話やスマートフォンの安心・安全な使い方を青少年に指導するための映像付き教材「考えよう、ケータイ」シリーズを活用した情報モラル教育の支援に取り組んでいます。「考えよう、ケータイ」シリーズの第4弾となる「みんなで考えよう、ケータイ・スマートフォン」では、ネットいじめや歩きスマホなど社会問題となっているテーマに焦点をあてています。映像教材を基に携帯電話やスマートフォンの安心・安全な使い方を問題提起し、子どもたちが問題点を主体的に考え、話し合うことで、自らの携帯電話、インターネットの利用方法を見直すことができる内容となっています。

「考えよう、ケータイ」シリーズは映像教材のDVDと指導案、ワークシートなどで構成されており、主に学校などの教育現場に無償で配布しています。この教材を使えば、先生や保護者、地域の青少年相談員の方に携帯電話やスマートフォンの安心・安全な使い方に関する授業や講座を簡単に進行していただけるようになっています。

「みんなで考えよう、ケータイ・スマートフォン」
教材DVDのお申し込みはこちら



Yahoo!あんしんねっと

携帯電話やスマートフォンのトラブルから子どもたちを守る

ソフトバンクとYahoo! JAPANは、スマートフォンやタブレット向けのフィルタリングサービス「Yahoo!あんしんねっと for SoftBank*」を共同開発して提供しています。年代に合わせたフィルタリングのモードを5種類から選択することで、不適切なサイトへのアクセスや有料サイトの高額利用を未然に防ぐことができます。また、アプリ内にある「ネットあんぜん検定」でインターネットリテラシーをチェックし、一人一人に合わせた安全対策をご案内します。

アプリダウンロードはこちらから



iPhone版



iPad版



*iPad アプリケーションの名称は、「Yahoo!あんしんねっとHD for SoftBank」です。

地球の未来を考えて、 環境と調和する社会を実現する

3Rの取り組み



地球環境の保護に有益な 携帯電話のリサイクル

ソフトバンクでは、循環型社会の実現に向けて、3R(リデュース:ゴミの量を減らす、リユース:繰り返し使う、リサイクル:再度資源として生かす)の取り組みを行っています。

レアメタル(パラジウム、コバルトなど)や金、銀、銅などのたくさんの貴重な資源が含まれている携帯電話をリサイクルすることは、資源の採掘による森林破壊や水質汚染、また採掘権争いの回避につながると考えています。メーカーや通信会社を問わずリサイクルを受け付けており、2015年度は使用済み携帯電話本体を約128万台回収しました。

Bloom Energy Japan

安定的で安心・安全な 「Bloomエネルギーサーバー」

Bloom Energy Japanは、高効率で低炭素な業務用・産業用燃料電池発電システム「Bloomエネルギーサーバー」の営業運転を2013年11月から行っています。「Bloomエネルギーサーバー」は米国Bloom Energy Corporationが特許を取得している固体酸化物形燃料電池(SOFC)技術を用いたもので、日本では2016年3月末時点で、大阪府中央卸売市場など全国4カ所で導入されています。主に冷蔵設備や重要なデータ保管を目的とした施設など、有事の際にも恒常的な電力供給が必要な重要設備に対し、24時間365日、系統電源から独立した電源として、電力の供給を継続的に行っています。



温暖化対策

オフィスや通信施設でのCO₂削減

当グループが入居する本社ビルでは、エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネ法)や東京都の環境確保条例の趣旨を踏まえて、電灯照度の適正調整や、空調稼働時間の合理化をはじめとするさまざまな省電力化を推進しています。

さらに本社をはじめ、ソフトバンクのネットワークセンターやデータセンターでは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、消費電力量の削減に積極的に取り組んでいます。

COOL CHOICE



「COOL CHOICE」への賛同

当グループは、環境省が実施する地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、その周知啓発を呼びかけています。「COOL CHOICE」とは、地球温暖化対策推進本部が掲げた2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという目標達成のために、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動です。

環境対応型データセンター

グリーンITへの取り組み

世界トップレベルのエネルギー効率を実現する環境対応型大規模データセンターを国内で東西に分散配置し、最新鋭の外気空調システムを導入することで空調消費電力の大幅削減を実現しています。福岡県北九州市に竣工した「北九州データセンター(アジア・フロンティア)」は、熱循環効率の改善や空調効率の最適化を追求した「GreenMall[®]」を採用することで、空調消費電力・CO₂排出量の削減に成功しました。加えて、エネルギー管理装置(BEMS)によるエネルギー分析を導入し、「GreenMall[®]」による省エネ効果を検証し、より一層の省エネ継続・推進を図っていきます。

SBエナジー

全国にメガソーラー発電所、風力発電所を建設

SBエナジーは、2012年7月1日に稼働を開始した京都府京都市および群馬県榛東村のメガソーラー発電所を皮切りに、2016年7月1日現在、全国で22カ所(25基)のメガソーラー発電所を運営しています。また、2016年6月10日からSBエナジー初の風力発電所「ウインドファーム浜田」で風力発電機29基が運転を開始しました。SBエナジーは今後もさらに再生可能エネルギーによる発電所の建設、稼働を推進します。

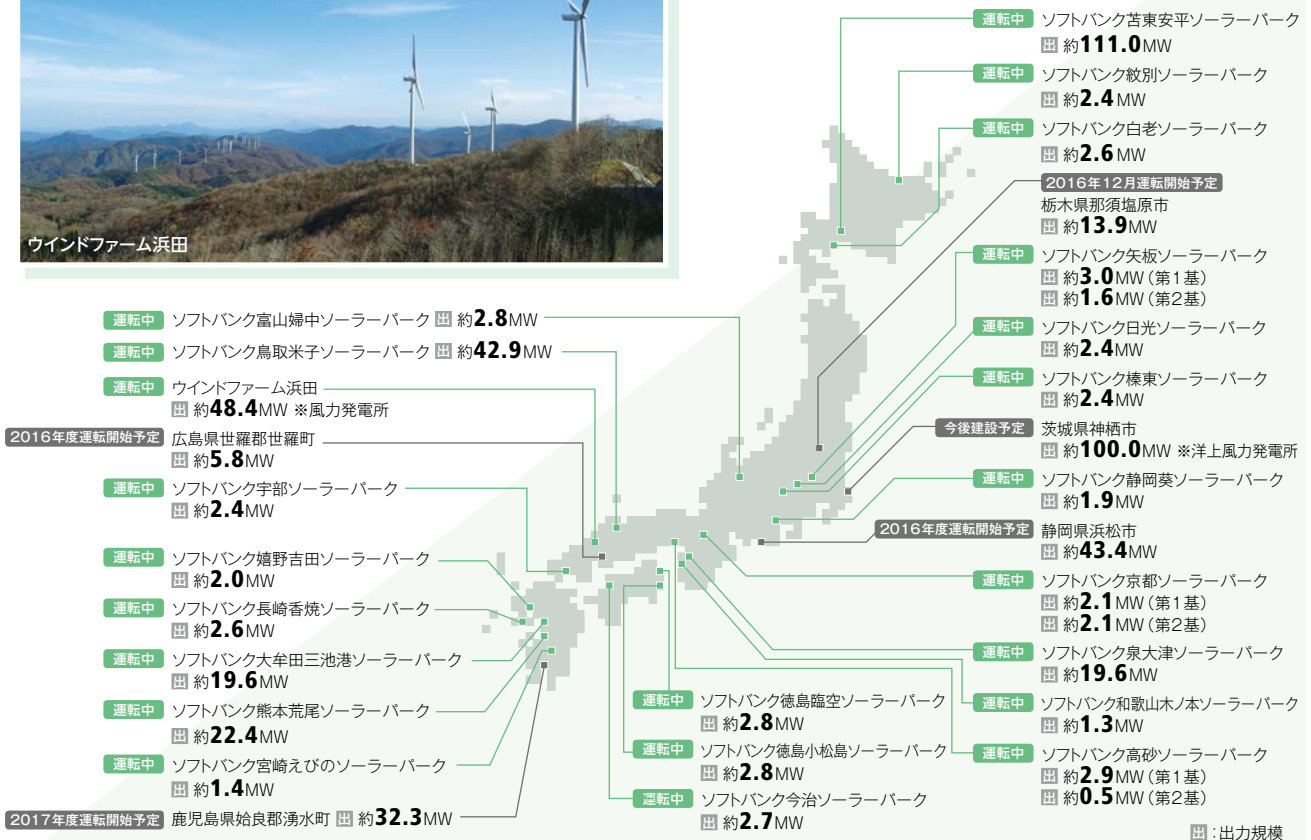


ソフトバンク長崎香焼ソーラーパーク

【自然エネルギー事業】 全国にメガソーラー発電所、風力発電所を建設 2016年7月1日時点



ウインドファーム浜田



一人一人が笑顔でいられる社会へ

ショートタイムワーク制度

障がいのある方を対象とした新しい雇用制度

ソフトバンクは、東京大学先端科学技術研究センター 人間支援工学分野と連携し、障がいにより長時間勤務が困難な方が週20時間未満で就業できる「ショートタイムワーク制度」を導入しています。この制度は、就労意欲はあるものの、障がいにより法定雇用率制度の算定対象となる週20時間以上働くことができず、就労の機会が得られなかった方に就労の機会を広げる、新しい雇用制度です。2016年8月時点で13人をこの制度で雇用しています。

今後は雇用人数を拡大するとともに、制度のノウハウや知見を他の企業や団体と共有し、法定雇用率制度の枠組みを超えて障がいのある方の雇用が進む社会を目指します。



データ入力などの業務に従事したスタッフのコメント(30代男性/統合失調症)

統合失調症(幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患)になり、長時間働くこと翌日動けなくなるといった症状があり、地域の障がい者支援センターに通うのも大変でした。「仕事をすることは夢でしかないのかな」と諦めかけていましたが、ソフトバンクで仕事を始め、大きな夢の第一歩を踏み出せたと思えました。最近は少しずつできることが増え、それとともに自信も取り戻せてきました。

魔法のプロジェクト

ICTを活用して、障がいのある子どもの生活や学習を支援

ソフトバンクと当グループで教育事業を担うエデュアスは、東京大学先端科学技術研究センターと共に、障がいのある子どものための携帯情報端末の活用事例研究「魔法のプロジェクト」に2009年から取り組んでいます。プロジェクトに参加する学校にソフトバンクから携帯情報端末を一定期間無償で貸し出し、学習や日常生活の場で活用いただきます。その活用事例を、報告会での発表や事例集の発刊・公開を通じて共有することで、障がいのある子どもの学習・生活支援を促進することを目的としています。このプロジェクトには、これまでに延べ300以上の特別支援学校などが参加しています。

魔法のプロジェクト2015 ～魔法の宿題～

2015年度は初めてWindows OSタブレットを導入し、生徒個々の特性に合わせた支援を強化しました。また、障がいのある児童・生徒に、より質が高く、きめ細かい支援を行っていただけるよう、協力校の先生や一般の方々を対象に、魔法のプロジェクトが認定する「魔法のティーチャー」による地域セミナーを実施しました。

携帯情報端末の活用事例

大分県立別府支援学校の高司 祐雅くんは、肢体不自由で腕を動かすことが難しいため、板書を書き写したり、教科書をめくったりすることに困難がありました。そこでタブレットで板書や教科書を撮影し、画像をひとまとめにすることで「自分専用タブレットノート」を作ることができました。高司くんは「タブレットは僕の勉強の相棒です。画面をタップするだけで操作できるので、以前よりもずっと学習しやすくなりました」とタブレットによる学習の変化を語ってくれました。



障がいのある方向けサービス

障がいのある方のコミュニケーションをサポートし、隔たりのない、優しい社会へ

① 視覚障がい者向け使い方教室 for iPhone

画面に表示されている項目を音声で読み上げる視覚サポート機能「VoiceOver」を有効に設定した状態で、iPhoneの基本的な操作方法を学習したり、練習することができるアプリ。

② こえ文字トーク

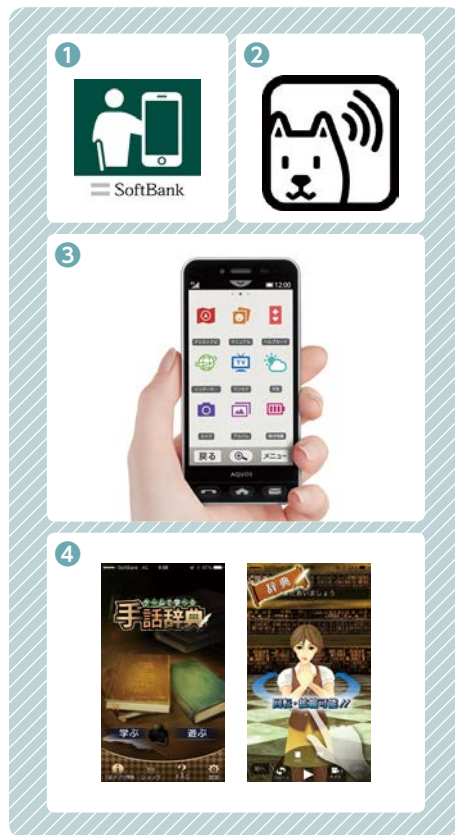
音声を文字に変換し、聴覚障がいのある方が会話の内容を文字で確認できるアプリ。2者間コミュニケーションをサポートする「1対1でトーク」機能のほか、最大8人まで対応可能な「グループでトーク」機能、周囲の音声を増幅させる「音量を増幅」機能があります。

③ アシストスマホ

主に知的障がいのある方の連絡や行動などを支援するサービス。支援者は専用サイトから、使用するアプリの設定をはじめ、徒歩での道案内として使える「アシストナビ」の目的地設定や、シーンや定型文をタッチするだけでメールを作成できる「アシストメール」の定型文作成などを通して利用者の行動をサポートできます。

④ ゲームで学べる手話辞典

実際の手話の動きを取り込んだ360度回転可能な3Dアニメーションで、約3,000語以上の手話単語を学べる手話学習アプリ。ゲーム機能もあるため、楽しみながら手話を学ぶことができます。日常生活において聴覚障がい者に接する機会のある方にもお勧めです。



ハートフルアシスト

全ての方に携帯電話をより便利に、快適にご利用いただくために



ソフトバンクでは、「ソフトバンクのハートフルアシスト」ページで、障がいのある方や高齢者の方がより快適に情報端末を活用できるよう、それぞれの障がいや困難に合わせたサービス、便利な設定などを分野別に分かりやすく紹介しています。



ソフトバンク手話教室と手話カウンター

手話で広がるコミュニケーション

ソフトバンクは日本手話によるコミュニケーションを促進するため、東京と大阪の2会場で「ソフトバンク手話教室」を開催し、2004年4月から2016年3月末までに延べ6,900人以上の方が受講しました。また、ソフトバンク渋谷では、聴覚に障がいのあるお客さまに、安心して携帯電話に関する相談・手続きをしていただけるよう、手話スタッフが常駐する「手話カウンター」を併設しています。



ビジネスアイデアコンテスト

社会に貢献するビジネスアイデアコンテスト

当グループでは、社会のニーズに応える先駆的なアイデアを発掘するとともに、従業員が改めて社会課題について考える機会となるよう、従業員から社会に貢献するビジネスアイデアを募るコンテストを2012年から開催しています。選考を経たアイデアは事業化が検討され、これまでに集まったアイデア約2,100件のうち、4件が事業化され、社会課題の解決につながっています。

【事業化したアイデアの例】

- 2012年9月「ソフトバンク かんたん募金*」
ソフトバンク携帯電話から金額を指定して、ソフトバンク携帯電話利用料金の支払いと一緒に非営利団体に寄付できるサービス
※現在は「かざして募金」に統合
- 2013年3月「旅バリふらっと伊勢志摩」
位置情報を利用した情報配信アプリ「ふらっと案内」に、障がいのある方に観光をより楽しんでいただくことを目的としてバリアフリー観光情報を提供するコンテンツを追加
- 2013年5月 高齢者スタッフ「シニアクルー」を組織化
シニアクルーによるシニア向けのスマートフォン講座を実施



ワークライフバランスの推進

子どもを産み、育てやすい職場環境をつくる

当グループでは、妊娠・出産・育児期の従業員を支援するため、出産祝い金の支給や妊娠中から子どもが小学校3年生終了時まで利用できる柔軟な勤務体系を整えています。中でも、小学校に就学する子どもを持つ従業員に対して子ども向け携帯電話を無料配布し、基本料金を免除するのは、当グループならではの制度です。

また、女性だけではなく男性も安心して子育てができる働き方の実現を目指しており、男性従業員の視点を取り入れた育児支援ポータルサイトの構築などに取り組んでいます。さらに、管理職の意識改革を行い、新しい時代の理想の上司を育てる企業のネットワーク「イクボス企業同盟」に加入しており、「管理職向け育児支援ハンドブック」の配布やeラーニング整備を通じて、個人と組織の可能性が最大限に引き出される職場環境の整備を目指しています。



柔軟な勤務体系で
生産性No. 1・創造性No. 1の企業を目指す

ソフトバンクは、2015年4月から社員の新しい働き方として「スマートワークスタイル」を掲げています。スマートワークスタイルとは、「ICTの力を活用して、生産性No. 1・創造性No. 1を目指し、メリハリのある仕事で成果を出す」ワークスタイルで、具体的には、スーパーフレックスタイム制や育児・介護により勤務時間の制約がある従業員を対象とした在宅勤務（週1回まで）があります。

スマートワークスタイルを取り入れることで、残業時間の削減とワークライフバランスの推進に取り組み、また定時退社Dayの設定により、退社後の時間を家族や友人と過ごしたり、自己啓発などに充てることを推奨しています。

※スーパーフレックスタイム制、在宅勤務は、部門の業務特性に鑑みて適用可否を判断しています。



アリババ

「女性と起業家精神に関する世界会議」を開催

世界最大手のeコマース企業の一つである当グループ傘下のアリババグループは2015年5月、より多くの女性がワークライフバランスを追求できる社会の実現を目指し、「女性と起業家精神に関する世界会議」を中国・杭州で初めて開催しました。中国全土から女性社長、役員、各分野のリーダーなど500人以上が参加しました。またアリババ会長のジャック・マー、CFOのマギー・ウーらが基調講演を行いました。

アリババグループは「どこでもビジネスをしやすくする」という使命の下、急成長を遂げるeコマース分野で、多くの女性が活躍するためのサポートをしていきます。



香港で起業家向けファンドを創設

アリババグループは2015年11月、香港で起業家向けファンド「Entrepreneurs Fund for Hong Kong」を創設しました。若者たちのキャリア形成と起業を支援し、香港に活気をもたらすことを目的としています。

年間200人の学生を対象にしたインターンシップ制度や投資プログラムで若者の夢を応援し、またアリババグループのeコマース、物流、モバイル、クラウドおよび金融のプラットフォームを生かした商品・サービスを、中国本土および世界各国に提供することを目指します。



スプリント

イリノイ州の学生に無料のブロードバンドサービスを提供し、デジタルデバインド(情報格差)の解消を支援

スプリントはイリノイ州の複数の公立学校に、2020年6月30日までブロードバンドサービスを無料で提供するプロジェクトを実施中です。

この取り組みにより、少なくとも1,600人のイリノイ州の学生が高速LTEブロードバンドでインターネットを利用できる環境が整います。

また、今後は米国政府主導のConnectED(官民一体で学校内のデジタルデバインドを解消するための取り組み)の一環として、全米で5万人の低所得世帯の子どもたちにワイヤレスブロードバンドを無償で提供予定です。



障がいのある人が最も働きやすい職場に選出

スプリントは2015年6月に、Disability Equality Index(障がい者平等指数調査)で最高スコアの100を獲得しました。この調査はAmerican Association of People with Disabilities(米国障がい者協会)とThe U.S. Business Leadership Network®(米国ビジネス・リーダーシップ・ネットワーク)が、障がい者雇用の促進と障がい者の受け入れに積極的な企業の支援を目的に、毎年共同で実施しているものです。

スプリントが長年にわたり取り組んできた、「障がいのある人が受け入れられる職場づくり」が評価され、今回の最高スコア獲得に至りました。



スプリント本社で実施された「障がいのあるアメリカ人法(Americans with Disabilities Act of 1990)」の制定25周年記念式典

2015年度実績と2016年度予定

※ **社名**の明記のないものはソフトバンク、および一部グループ会社が実施

項目	2015年度実績	評価	2016年度予定
経営全般			
CSR基本方針の策定	グループ全体のCSRの指針として「ソフトバンクグループCSR基本方針」を開示	A	グループ全体のCSRの指針として「ソフトバンクグループCSR基本方針」を開示
体制、意思決定の過程および構造	<ul style="list-style-type: none"> ソフトバンクグループの取締役1名を「グループCSR推進責任者」、グループ主要各社の役員を「CSR推進責任者」に選任 年2回の「グループCSR連絡会」を通じて情報共有・交換の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ソフトバンクグループの取締役1名を「グループCSR推進責任者」、グループ主要各社の役員を「CSR推進責任者」に選任 年2回の「グループCSR連絡会」を通じて情報共有・交換の実施
CSR重要課題の特定	以下をCSR重要課題として実績と目標を公開(ISO26000批准) <ol style="list-style-type: none"> 健全なインターネット社会 夢と志を持つ次世代を 地球の未来を(環境保全) 復興支援の取り組み 	A	以下をCSR重要課題として実績と目標を公開(ISO26000批准) <ol style="list-style-type: none"> 健全なインターネット社会を 夢と志を持つ次世代を 地球の未来を(環境保全) 復興支援の取り組み
コーポレート・ガバナンス	社内外の監査部門による内部統制システムの検証・評価を実施	A	社内外の監査部門による内部統制システムの検証・評価を実施
社員との関係			
雇用対策	<ul style="list-style-type: none"> 役割と成果、能力に応じた公正な評価を実施 男女、年齢、学歴、国籍などに関係なく実力ある人材を採用、登用 年1回のESサーベイ実施と改善の推進 育児支援制度の充実 障がい者雇用の推進 東京都地域展開型処遇改善事業への取り組み 	A	<ul style="list-style-type: none"> 役割と成果、能力に応じた公正な評価を実施 男女、年齢、学歴、国籍などに関係なく実力ある人材を採用、登用 年1回のESサーベイ実施と改善の推進 育児支援制度の充実 障がい者雇用の推進 東京都地域展開型処遇改善事業への取り組み SBアットワーク 有期雇用社員の契約期間無期化(職種限定正社員導入)
労働条件、社会保障	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスのための各種制度を継続 <ul style="list-style-type: none"> 各社、各部門ごとのノー残業デーの推進 フレックスタイム制度の利用促進 各種休暇制度の利用促進 過重労働対策 災害時の安否確認システム 「ファミリーデー FY15」の開催 Yahoo! JAPAN サバティカル制度 ファミリーデーの開催 業績連動型社員食堂「BASE6」の運用 IDCフロンティア 1/3休暇制度 朝型勤務制度 フルチャージ入社制度 	A	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスのための各種制度を継続 <ul style="list-style-type: none"> 各社、各部門ごとのノー残業デーの推進 フレックスタイム制度の利用促進 各種休暇制度の利用促進 過重労働対策 災害時の安否確認システム 「ファミリーデー FY16」の開催 Yahoo! JAPAN サバティカル制度 ファミリーデーの開催 業績連動型社員食堂「BASE6」の運用 IDCフロンティア 1/3休暇制度 朝型勤務制度 フルチャージ入社制度
コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス・ホットライン(内部通報制度)の整備 コンプライアンス研修の実施(eラーニング含む) コンプライアンスセルフチェックのグループ展開 秋期にコンプライアンス月間を設定 	A	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス・ホットライン(内部通報制度)の運用 コンプライアンス研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> グループ会社の役員・経営幹部向け研修の実施 グループ会社の役職員向けコンプライアンス浸透月間の実施 コンプライアンス・サーベイ(意識調査)の実施 コンプライアンス・セルフチェックの実施
安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> 健全な職場環境づくり、安全衛生体制の継続 こころとからだの相談窓口(ウェルネスセンター) モバイルデバイスで利用可能なストレスチェックシステムを活用し、グループ社員向けに実施 ホットライン 急患発生時の連絡フロー メンタル面の予防・ケア マッサージルームの設置 職場内の身近な相談役(ピアサポーター)設定 SBアットワーク 禁煙啓蒙(社員食堂での肺年齢チェック) 救急看護講習 IDCフロンティア アーリーバードプログラム ウォーキングプログラム 	A	<ul style="list-style-type: none"> 健全な職場環境づくり、安全衛生体制の継続 こころとからだの相談窓口(ウェルネスセンター) モバイルデバイスで利用可能なストレスチェックシステムを活用し、グループ社員向けに実施 ホットライン 急患発生時の連絡フロー メンタル面の予防・ケア マッサージルームの設置 職場内の身近な相談役(ピアサポーター)設定 SBアットワーク 応急手当/AED講習会 IDCフロンティア アーリーバードプログラム ウォーキングプログラム

<自己評価基準>

- A+ : 目標より高い成果が得られた
- A : 取り組みの成果が得られた
- B : 取り組みを行ったが目標の成果を得るに至らなかった
- C : 成果が得られなかった、または取り組みなかった

項目	2015年度実績	評価	2016年度予定
社員との関係			
人材育成・教育	<ul style="list-style-type: none"> ●社長自身による後継者育成プログラム(ソフトバンクアカデミア) ●社員自ら選択できる豊富な研修プログラム(ソフトバンクユニバーシティ) ●社員からの提案を広く募集する仕組み(ソフトバンクイノベーションチャーター、社会に貢献するビジネスアイデアコンテスト) ●全社英語力向上施策の推進 ●TOEICスコアに準じたインセンティブ制度の実施(FY15、12月まで) ●資格取得支援制度 ●社員同士の知恵や知識をシェアするプログラム(知恵マルシェ) ●社員が自ら講師となり研修を提供する制度(IC) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●社長自身による後継者育成プログラム(ソフトバンクアカデミア) ●社員自ら選択できる豊富な研修プログラム(ソフトバンクユニバーシティ) ●社員からの提案を広く募集する仕組み(ソフトバンクイノベーションチャーター、社会に貢献するビジネスアイデアコンテスト) ●全社英語力向上施策の推進 ●資格取得支援制度 ●社員同士の知恵や知識をシェアするプログラム(知恵マルシェ) ●社員が自ら講師となり研修を提供する制度(IC)
環境			
環境マネジメント	ISO14001(本社・札幌)規格認証の継続	A	ISO14001(本社・札幌)規格認証の継続
資源利用量	オフィス環境目標 ●電力消費量 2010年度比 ▲36%(本社) アイティメディア ●スマートジャパン(節電・蓄電・発電に取り組む企業の課題解決サイト)運営 ソフトバンク・テクノロジー ファシリティ管理システムの導入による電力使用量の可視化と、集中管理を行い、エネルギー消費量削減施策を実施	A	オフィス環境目標 ●電力消費量 2010年度比 ▲25%(本社) アイティメディア ●スマートジャパン(節電・蓄電・発電に取り組む企業の課題解決サイト)運営 ソフトバンク・テクノロジー ファシリティ管理システムの導入による電力使用量の可視化と、集中管理を行い、エネルギー消費量削減施策を実施
環境保護	環境保全活動を継続的に実施 ●ペーパーレス徹底 ●グリーン調達ガイドライン遵守の徹底 ●一斉消灯システムの継続運用 SBエナジー 自然エネルギーの推進 「ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク」での羊・ヤギによる除草試験の実施 バリューコマース 赤城自然園の協賛企業として活動支援 IDCフロンティア 呼吸するデータセンター	A	環境保全活動を継続的に実施 ●ペーパーレス徹底 ●グリーン調達ガイドライン遵守の徹底 ●一斉消灯システムの継続運用 ●豊洲事業所の照明のLEDへの変更 SBエナジー 自然エネルギーの推進 「ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク」での羊・ヤギによる除草試験の実施 バリューコマース 赤城自然園の協賛企業として活動支援 IDCフロンティア 呼吸するデータセンター
資源の再利用	<ul style="list-style-type: none"> ●ケータイリサイクル ●ゴミの分別 ●使用済み文書の専用リサイクルボックスの活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●ケータイリサイクル ●ゴミの分別 ●使用済み文書の専用リサイクルボックスの活用
教育および意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ●「産業廃棄物の適正処理」「電子マニフェスト」などについてのeラーニングを実施し、関連法律・業務知識の向上 ●使用済み携帯電話の処理に関する社員の知識向上 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「産業廃棄物の適正処理」「電子マニフェスト」などについてのeラーニングを実施し、関連法律・業務知識の向上 ●使用済み携帯電話の処理に関する社員の知識向上
	アイティメディア <ul style="list-style-type: none"> ●スマートジャパンにて節電情報をウェブ上で公開 ●SBエナジー ●自然エネルギー・環境教育 ●「未来×エネルギー プロジェクト」実施(3校)・とっとり自然環境館運用 ●SBエナジーコンテンツサイト「みるみるわかるEnergy」展開 	A	アイティメディア <ul style="list-style-type: none"> ●スマートジャパンにて節電情報をウェブ上で公開 ●SBエナジー ●自然エネルギー・環境教育 ●「未来×エネルギー プロジェクト」実施(3校)・とっとり自然環境館運用 ●SBエナジーコンテンツサイト「みるみるわかるEnergy」展開
ビジネスパートナーとの関係			
公正な競争	<ul style="list-style-type: none"> ●リバースオークション(電子入札)の実施 ●サプライヤー倫理行動規範遵守の徹底 ●お取引先との公正で良好な取引関係の維持 ●IDCフロンティア テクニカルパートナーアワード実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●リバースオークション(電子入札)の実施 ●サプライヤー倫理行動規範遵守の徹底 ●お取引先との公正で良好な取引関係の維持 ●IDCフロンティア テクニカルパートナーアワード実施

2015年度実績と2016年度予定

項目	2015年度実績	評価	2016年度予定
お客さまとの関係			
消費者の安全保護	<ul style="list-style-type: none"> 情報リテラシー教育「考えよう、ケータイ」シリーズの推進 スマートフォンにも対応するフィルタリングサービスの提供 歩きスマホ、公共の場所での配慮点などケータイマナーについての注意喚起 歩きスマホ抑止アプリケーション「STOP歩きスマホ」の提供 Yahoo! JAPAN フィッシング警告、セキュリティ対策機能の提供 ヤフオク!での不正防止 インターネットに関する公的会議への参加と提言活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報リテラシー教育「考えよう、ケータイ」シリーズの推進 スマートフォンにも対応するフィルタリングサービスの提供 歩きスマホ、公共の場所での配慮点などケータイマナーについての注意喚起 歩きスマホ抑止アプリケーション「STOP歩きスマホ」の提供 Yahoo! JAPAN フィッシング警告、セキュリティ対策機能の提供 ヤフオク!での不正防止 インターネットに関する公的会議への参加と提言活動
消費者支援、苦情解決	<ul style="list-style-type: none"> お客さま満足度向上のための各種施策を継続 <ul style="list-style-type: none"> — コールセンター利用者、店舗来店者へのお客さまアンケート実施と活用 — プロスタッフ認定制度 — My SoftBankの拡充 障がい者向けのIT支援推進 <ul style="list-style-type: none"> — 障がい児の学習・生活のためのIT支援の研究 障がい者向け支援の強化・推進 高齢者向けのICT支援 <ul style="list-style-type: none"> — シンプルスマホ教室の実施 ソフトバンク手話教室の提供 迷惑電話チェッカー Yahoo! JAPAN 災害情報の提供 チャットを利用したサポートの拡充 サービスの安心・安全強化 ヘルプページのコンテンツ拡充 各種ウェブサービスパトロールの実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> お客さま満足度向上のための各種施策を継続 <ul style="list-style-type: none"> — コールセンター利用者、店舗来店者へのお客さまアンケート実施と活用 — プロスタッフ認定制度 — My SoftBankの拡充 障がい者向けのIT支援推進 <ul style="list-style-type: none"> — 障がい児の学習・生活のためのIT支援の研究 障がい者向け支援の強化・推進 高齢者向けのICT支援 <ul style="list-style-type: none"> — シンプルスマホ教室の実施 ソフトバンク手話教室の提供 迷惑電話チェッカー Yahoo! JAPAN 災害情報の提供 チャットを利用したサポートの拡充 サービスの安心・安全強化 ヘルプページのコンテンツ拡充 各種ウェブサービスパトロールの実施
消費者データ保護およびプライバシー	<ul style="list-style-type: none"> 規格の認証取得・継続 ※ISO27001認証の維持継続 SBネットワーク 規格の認証取得・継続 (ISO9001、プライバシーマーク) 規格の認証を追加取得 (ISO27001、ISO20000) リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ、SBヒューマンキャピタル プライバシーマーク運用 (JISQ15001:2006) バリューコマース 規格の認証運用 (プライバシーマーク、TRUSTe) Yahoo! JAPAN ISMS認証の取得 ISO15408認証の取得 PCI DSS認定の取得 ソフトバンク・テクノロジー オフィスセキュリティマーク認証の取得 ISO/IEC 20000認証の取得 規格の認証取得・継続 (ISMS認証、プライバシーマーク) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 規格の認証取得・継続 ※ISO27001認証の維持継続 SBネットワーク 規格の認証取得・継続 (ISO9001、ISO20000、ISO27001、プライバシーマーク) リアライズ・モバイル・コミュニケーションズ、SBヒューマンキャピタル プライバシーマーク運用 (JISQ15001:2006) バリューコマース 規格の認証運用 (プライバシーマーク、TRUSTe) Yahoo! JAPAN ISMS認証の取得 ISO15408認証の取得 PCI DSS認定の取得 ソフトバンク・テクノロジー 規格の認証取得・継続 (ISMS認証、プライバシーマーク、オフィスセキュリティマーク認証、ISO/IEC 20000)
教育および意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ教育、eラーニングを全従業員へ実施 <ul style="list-style-type: none"> — セキュリティメールマガジンの定期的な発行 	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ教育、eラーニングを全従業員へ実施 <ul style="list-style-type: none"> — セキュリティメールマガジンの定期的な発行
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 災害時を想定した訓練の実施 防災教育eラーニングの実施 全社的なリスクマネジメントをグループ各社へ拡大・推進 災害対策の検証や運用の定着 	A	<ul style="list-style-type: none"> 災害時を想定した訓練の実施 防災教育eラーニングの実施 全社的なリスクマネジメントをグループ各社へ拡大・推進 災害対策の検証や運用の定着
必要不可欠なサービスへのアクセス	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークセンターの強化、蓄電池や発電機による基地局の24時間化 (災害対策への取り組み) BCP対策を推進 <ul style="list-style-type: none"> — 移動基地局車・可搬型基地局・移動電源車・携帯発電機・貸し出し用携帯や衛星携帯電話などを全国各地に配備 Yahoo! JAPAN 災害時の体制の再構築 非常災害対策指針の改定 災害時のサービス優先定義の見直し 災害時を想定した訓練の実施 ICS (インシデント・コマンド・システム) の導入 	A	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークセンターの強化、蓄電池や発電機による基地局の24時間化 (災害対策への取り組み) BCP対策を推進 <ul style="list-style-type: none"> — 移動基地局車・可搬型基地局・移動電源車・携帯発電機・貸し出し用携帯や衛星携帯電話などを全国各地に配備 Yahoo! JAPAN 災害時の体制の再構築 非常災害対策指針の改定 災害時のサービス優先定義の見直し 災害時を想定した訓練の実施 ICS (インシデント・コマンド・システム) の導入

項目	2015年度実績	評価	2016年度予定
地域社会との関係			
コミュニティへの参画	<p>多くの非営利団体が活用できる募金プラットフォーム「かざして募金」の利用促進</p> <p>Yahoo! JAPAN</p> <ul style="list-style-type: none"> ●会社見学の受け入れ ●保護者や学校と協働する研究会活動 ●小中高生を対象とした特別授業 <p>ソフトバンク・ペイメント・サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉法人 福岡県・佐賀県社会福祉協議会へのメセナシート寄付 <p>SBクリエイティブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公益財団法人 日本科学協会さまへの図書寄贈 <p>SBヒューマンキャピタル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プロスポーツ選手のセカンドキャリア支援事業 <p>サイバー大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コーポレート奨学生制度の継続 ●福岡でサイバー大学IT・ビジネスセミナー(無料)を開催 <p>福岡ソフトバンクホークス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地方独立行政法人 福岡市立こども病院への慰問実施 ●小学生の野球観戦招待と保護者優待事業(野球を通じた親子コミュニケーションの創出) ●福岡市ときめきプロジェクトへの参画(障がい者アートの販売支援など) <p>IDCフロンティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ICT学習を支援するアカデミックプログラムを福岡市で開始 ●特定非営利活動法人 アイセックとのスポンサーシップ契約の締結 	A	<p>多くの非営利団体が活用できる募金プラットフォーム「かざして募金」の利用促進</p> <p>Yahoo! JAPAN</p> <ul style="list-style-type: none"> ●会社見学の受け入れ ●保護者や学校と協働する研究会活動 ●小中高生を対象とした特別授業 <p>ソフトバンク・ペイメント・サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社会福祉法人 福岡県・佐賀県社会福祉協議会へのメセナシート寄付 <p>SBクリエイティブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公益財団法人 日本科学協会さまへの図書寄贈 <p>SBヒューマンキャピタル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プロスポーツ選手のセカンドキャリア支援事業 ●鳥取県八頭郡八頭町の地方再生事業(隼Lab.) ●フリーランスママによる在宅型のマーケティング・クリエイティブサービス「Mom's Lab」 <p>サイバー大学</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コーポレート奨学生制度の継続 <p>福岡ソフトバンクホークス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地方独立行政法人 福岡市立こども病院への慰問実施 ●小学生の野球観戦招待と保護者優待事業(野球を通じた親子コミュニケーションの創出) ●福岡市ときめきプロジェクトへの参画(障がい者アートの販売支援など) <p>IDCフロンティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ICT学習を支援するアカデミックプログラムを福岡市で実施 ●特定非営利活動法人 アイセックとのスポンサーシップ契約の締結
地域社会との関係	<ul style="list-style-type: none"> ●公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本スポンサー <p>SBエナジー</p> <p>発電所建設に伴う、地元への説明会実施</p> <p>Yahoo! JAPAN</p> <ul style="list-style-type: none"> ●官公庁および自治体主催イベント・会議への参加 ●石巻復興ベースを地域へ開放 <ul style="list-style-type: none"> ●公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本に協賛 <p>IDCフロンティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ●岐阜県の限界集落での「IoT Bootcamp」を実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本スポンサー <p>SBエナジー</p> <p>発電所建設に伴う、地元への説明会実施</p> <p>Yahoo! JAPAN</p> <ul style="list-style-type: none"> ●官公庁および自治体主催イベント・会議への参加 ●石巻復興ベースを地域へ開放 <ul style="list-style-type: none"> ●公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本に協賛
東日本大震災	<ul style="list-style-type: none"> ●携帯電話利用料金のオプションサービスとして毎月寄付ができる「チャリティホワイト」を提供 ●被災地の経済活性化支援—復興支援ソフトバンク商品券 <p>ソフトバンクグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「TOMODACHIソフトバンク・リーダーシップ・プログラム」の実施 <p>Yahoo! JAPAN</p> <ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災の復興支援および震災の記憶を未来に残していくことを目的とした自転車イベント「ツール・ド・東北」の開催 ●東北地方の特産品をインターネットで販売する「復興デパートメント」 ●インターネットを活用した継続的な被災地支援 <p>SBクリエイティブ/オッズ・パーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公益財団法人東日本大震災復興支援財団への寄付 <p>ベクター</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「アルパカ・リーフ・プロジェクト」による募金を継続(2015年7月終了) <p>バリューコマース</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ウェブベルマーク」のaffiliateプログラムの提供による活動支援 <p>SBアットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ●従業員向け給与天引きによる寄付の仕組みとシステムの提供範囲拡大 <p>SBヒューマンキャピタル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●仕事情報サイト提供 <p>福岡ソフトバンクホークス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●福岡ソフトバンクホークスオフィシャルサイトに東日本大震災復興支援特設サイト「がんばろう!日本」のバナーを掲載 ●各球場に募金箱を設置 ●ヘルメットに「がんばろう!日本」を掲出 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●携帯電話利用料金のオプションサービスとして毎月寄付ができる「チャリティホワイト」を提供 <p>ソフトバンクグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「TOMODACHIソフトバンク・リーダーシップ・プログラム」の実施 <p>Yahoo! JAPAN</p> <ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災の復興支援および震災の記憶を未来に残していくことを目的とした自転車イベント「ツール・ド・東北」の開催 ●東北地方の特産品をインターネットで販売する「東北エールマーケット」 ●インターネットを活用した継続的な被災地支援 <p>SBクリエイティブ/オッズ・パーク/SBアットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公益財団法人東日本大震災復興支援財団への寄付 <p>ベクター</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ゲームの絆PROJECT」による公益財団法人東日本大震災復興支援財団への寄付を継続 <p>バリューコマース</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ウェブベルマーク」のaffiliateプログラムの提供による活動支援 <p>福岡ソフトバンクホークス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●福岡ソフトバンクホークスオフィシャルサイトに東日本大震災復興支援特設サイト「がんばろう!日本」のバナーを掲載 ●各球場に募金箱を設置 ●ヘルメットに「がんばろう!日本」を掲出



ソフトバンクグループ株式会社

〒105-7303
東京都港区東新橋1-9-1
TEL: 03-6889-2000(代表)
<http://www.softbank.jp/>

Copyright © 2016 SoftBank Group Corp. All Rights Reserved.

2016年8月

• TM and © 2016 Apple Inc. All rights reserved. Apple, iPhone, iPadは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
• Androidは、Google Inc.の商標または登録商標です。